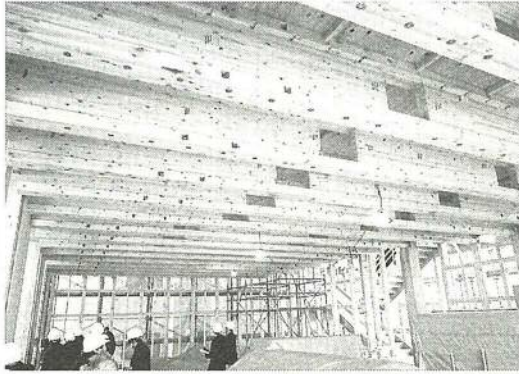


中規模木造の新社屋建設

ポラテック



一般流通材で直営一貫施工

ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）は、千葉県松戸市にグループ企業の新社屋をポラスオリジナル工法で建設中だ。延べ床面積約200坪、3階建て木造軸組工法の準耐火建築物で、設計・施工・資材調達・加工からアフターまでの直営一貫体制を敷く。一般流通材のみで大断面集成材と同等の強度を担保しながら、コスト競争力を発揮する工法だ。同社は「ゆくゆくは木造のゼネコンを目指していく」とする。

木造のゼネコン目指す

JR常磐線馬橋駅西 護住宅を供給するグループ正面の好立地で、グループ企業・ポラスガーデンヒルズの新社屋となる。8月末に着工し、11月18日に上棟を終え、現在は躯体工事に入り、12月1日に構造見学会を開いて設計事務所20人が参加した。竣工は2018年2月

末の予定となる。同グループは企業内に建築職業訓練校を備え、これまで700人以上が卒業。今回の物件でも、大工6人中4人が訓練校出身だ。

近年同社でも中大規模物件の受注が増え始め、14年にはプレキャスト事業部におけるシェアの約1割を占めるまでに成長。この3年間で約40棟（約40億円）を受注し、7割が設計事務所の設計で同社が施工する形式だ。今回3階建てともなると

荷重も増え、床の重量や耐震、耐火に対する懸念、壁や柱の取り合いなど、木造に興味のある設計士の参考となるように見学会への参加を呼び掛けた。一般流通材を用いた木造オリジナル工法のコスト競争力も併せて訴求した。

建築面積は240平方メートル（縦12・7×横16・7メートル）で、各階の天井高は3メートル超、建物全体の高さは14メートル。空間のほとんどが縦方向に17本の重ね梁（1階8・7メートル、2・3階9・3メートル）で飛ばした無柱約9×17メートルの大空間で、外周に合わせ柱と耐力面材を配したシンブルな軸組構造だ。

同様の燃え方をすること、60分の非損傷性を持つことも確認している。また外周部分をぐるりと取り巻く合わせ梁は、梁せい450ミリの集成梁を横方向に束ねた大断面梁。大スパンを可能とする重ね梁は、梁せい600ミリのIビーム形状で、ウェブに開口部を設けてダクトや配線を通す。耐力壁は杉の3層CLTを用いた化粧耐力壁で、約1×4メートルの壁を構成し、壁倍率は9・4倍相当。立地が駅正面のロードサイドであることから、建物正面をカーテンウォールで木材現しの内部を見せ、夜間はライトアップが目立たせる。

同社は14年ごろから中大規模物件を手掛けるため、ゼネコンに現場監督6人を派出させてきた。将来的には木造のゼネコンとしての立場を確立していく構えだ。